



青少年赤十字創設100周年 この1年をふりかえって

青少年赤十字創設100周年記念事業
青少年赤十字ポスターコンクール
受賞作品展



三重県の小中高校より19校586点の作品が集まりました。3月12日に表彰式を行い、県総合博物館MieMuにて2月19日～3月21日まで展示しました。

<巡回展示>
・4/20～5/15 度会町役場
・5/17～5/29 松阪市役所
・6/1～6/23 桑名市役所
・9/7～9/29 尾鷲市福祉保健センター

青少年赤十字創設100周年
オープニングイベント



青少年赤十字創設100周年のスタートとして、「未来のあなたへ、やさしさを。」のスローガンについて、全国の人々とWEBでつながり、考えてみよう!という企画です。

全国から多くの方が参加されました!「赤十字・青少年赤十字の誕生」[指導者が語る青少年赤十字の今]「青少年赤十字のこれから」という内容で語り合いました。

三重県青少年赤十字 中学校トレセン・高校トレセン



小学校トレセンは本年度も中止。中学校トレセンは、2日間開催し、仲間とともに「気づき・考え・実行する」リーダーになるための研修を行いました。高校トレセンも2日間開催し、2日目は北部校・南部校に分かれて「三重県青少年赤十字まつり」の具体的な取り組みについての意見を出し合いました。

青少年赤十字創設100周年 スタディー・ツアー



愛知県と三重県の小学校6年生の青少年赤十字メンバーが、赤十字ゆかりの場所と赤十字施設を巡って赤十字の歴史と今を学び、壁新聞づくりに取り組みました。三重県からは、桑名市立在良小学校の6年生2名が参加してくれました。

3年生を送る会(高等学校連絡協議会)



これまで中心となってJRCの取り組みをひっぱりつづけてきた3年生の皆さんの卒業を祝う会「3年生を送る会」を行いました。卒業される3年生から力強いメッセージをいただき、後輩の皆さんが来年度どのような取り組みを展開してくれるか楽しみます。3年生リーダーを務めた2名に三重県支部から感謝状を贈呈させていただきました。

「JRC活動の3年間をふりかえって」

白子高校3年 服部 恭吾

私はJRCでの約3年間の活動を通して、制限がある中でしっかり取り組めたと感じています。新型コロナウイルスの影響で、1年生のほぼすべての活動がオンラインとなり、その中でも中止になってしまったものもありました。そんな中でも自分に何ができるかを考え、たくさんの方の力を借りながら、その考えを行動に移すことができたと思います。また、リーダーを経験させていたことで、私自身の目標である「物事を様々な視点から見ることができ、それを実行に移す」という目標を達成することもできました。

私は、活動をしていくなかで「一番大切なことは、相手の立場になって考えることと意見をたくさんの人と交換することだ」と考えています。今でも、新型コロナウイルスや戦争などたくさんの方の問題があります。どんな問題であっても3年間を通して学んだように、「気づき・考え・実行する」ことをこれからも継続して続けていきたいと思っています。3年間、ありがとうございました。



「3年生を送る会」を開催しました!!

令和5年2月11日(土・祝)、本年度最後にあたる第3回三重県青少年赤十字高等学校連絡協議会及び顧問会議を三重県最南端の県立紀南高校にて開催しました。当日はJRCメンバー43名、指導者15名、青年赤十字奉仕団2名の60名が参加してくれました。

連絡協議会では、これまで会を引っ張っていただいた先輩方の「3年生を送る会」を開催し、みんなで楽しくゲームなどをして思い出を深め、卒業される先輩方から力強いメッセージをいただきました。

「他校の皆さんと楽しく交流ができ、とても楽しかったです。何よりコミュニケーション能力が培われたと思います。」JRCの活動は必ず自分たちのためになるので、後輩の皆さんも頑張ってください!「私たちは、これから社会に出る人も進学する人もいますが、このJRCで学んだことを生かして頑張っていきたいと思います。」などの言葉をいただき、後輩たちも身を引き締める場となりました。

3年生の皆さん、本当にありがとうございました。

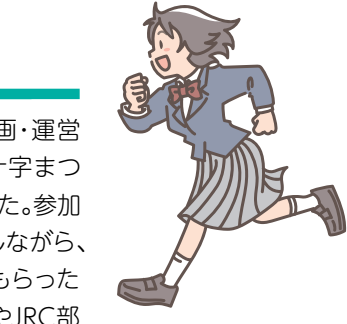
第1回高等学校連絡協議会
＜青少年赤十字まつり内容検討＞



高校生が中心となって企画・運営をする「三重県青少年赤十字まつり」の内容検討を行いました。参加した8校の高校生が交流しながら、どんな内容にしたら来てもらった人に青少年赤十字の活動やJRC部の取り組みを知ってもらえるか、真剣に話し合いました。

青少年赤十字創設100周年記念ダンス企画
「つながるダンスプロジェクト」

青少年赤十字創設100周年を記念し、ダンスプロジェクトが始動!あの人気ロックバンドGLAYの「YOUR SONG feat. MISIA」の曲に合わせて創作ダンス動画を作り上げ、世界中の青少年赤十字メンバーとつながりましょう!というキャッチフレーズで行われました。三重県からは、「青少年赤十字まつり」でダンスを披露してくれたB-BOX、G-rowの皆さんが参加してくれました。



青少年赤十字創設100周年記念事業
「三重県青少年赤十字まつり」



三重県総合博物館MieMuのコラボレーションデーとして、全館貸切で開催しました。館内1階は、高校生8校のブース発表や地域奉仕団の炊き出し体験、健康測定などを行いました。2階では、赤十字奉仕団(無線・安全・点訳・地域)の皆さんがブースを展開。青少年赤十字ポスター展示やハートちゃん写真撮影コーナーなど盛りだくさん。駐車場ではキッチンカーもたくさん出ていただき、献血車体験・職業体験・ステージ企画(ダンス・大道芸・高校生発表)などで賑わい、当日は4,000名を超える方々に楽しんでいただきました。

中学校連絡協議会 国際交流会



津市立西橋内中学校にて開催。三重日本語学校の生徒さん10名と津市内の中学校7校の生徒さん20名が参加し、国際交流会を開催しました。午前中は生徒会活動交流、午後はネパール・ベトナムの国の文化を教えてくださいました。

青少年赤十字 スタディ・プログラム

来年度の高校生リーダーを養成するリーダー研修会です。1回目はWEBで全国の高校生生の代表と交流。2回目は日本本社にて1日研修会でした。しっかりとバトンを受け継ぎ、令和5年度を盛り上げてほしいと思います。



青少年赤十字

第32号

発行者 日本赤十字社
発行 三重県支部
令和五年三月



令和4年12月10日(土)

中学生

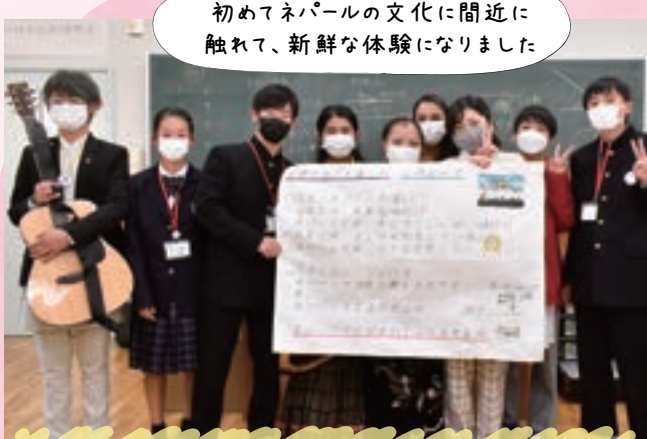
令和4年度三重県青少年赤十字

中学校連絡協議会 国際交流会

— ベトナム、ネパールの方々との交流 —

令和4年度の「中学校連絡協議会 国際交流会」には7校・20名の中学生が参加。生徒会活動に関して意見を交換したり、ベトナムやネパールの三重日本語学校生たちと交流を行うなど、さまざまな気づきを得られる時間となりました。

参加校は、橋北中学校・西橋内中学校・南が丘中学校・豊里中学校・久居中学校・久居東中学校・みさとの丘学園になります。※7校とも津市内の学校



初めてネパールの文化に間近に触れて、新鮮な体験になりました

初めて会った者同士でも、国境に関係なく仲良くできることを体験。それこそが今の時代に必要なことだと感じたという声も。



ネパール

一緒に発表資料作りをやり遂げることで、繋がりが深まりました



生まれ育った国は違っても同じ人間同士なんだと、あらためて気づく機会となりました。

国際交流会

ベトナム、ネパールの若者たちと交流。文化の違う相手と認め合う大切さを知る機会に

午前中は青少年赤十字の活動内容について学んだ後、各校がそれぞれ生徒会活動の内容を発表。他校の生徒会が行っている取り組みに刺激を受け、自分たちの活動に取り入れていきたいという声も多く聞かれました。午後からベトナムとネパールの日本語学校生たちと交流活動をスタート。当初の緊張がほぐれてくると、積極的にコミュニケーションを取る姿も見られました。最後は聞き取った内容を各グループごとに発表。国は違っても同じ人間であること、おたがいの文化を認め合う楽しさ、大切さについて学ぶことができたという声も聞かれるなど、日頃は知る機会のない異文化に間近に触れることで、視野を広げることができる機会となりました。



説明が難しい場面でも、おたがいに頑張って伝えようとする姿勢が見られました



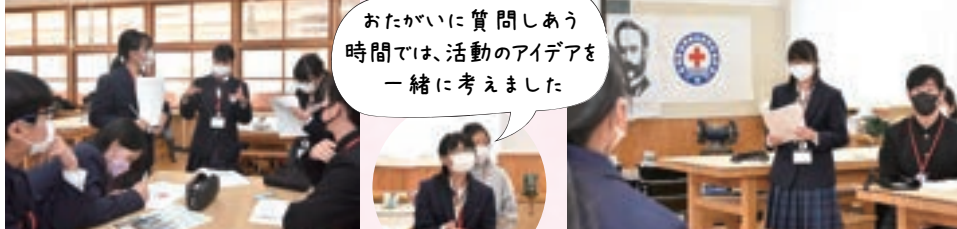
ベトナム

日本とベトナムの違いを知るとともに、日本という国がベトナムからどのように見えているのかを知ることも新鮮な経験となりました。

生徒会交流

自分たちの生徒会活動に役立つヒントを得られる機会になりました

各校が生徒会の活動内容を発表。地域や社会に貢献したり、PTAと語り合うなど、各校では行っていない活動に興味深く聞き入っていました。



おたがいに質問しあう時間では、活動のアイデアを一緒に考えました

生徒同士で話し合いを進める中で、リーダーシップが育まれる機会にも。

おたがいの活動内容について生徒たちは活発に意見を交わし合いました。



ネパール

思った以上に「言葉の壁」を感じることなくコミュニケーションが取れて嬉しかったです



おたがいの国の文化や習慣について質問しあい、理解を深めることができました。



初めて会った異国の人たちと力を合わせて発表物を作り上げる。貴重な経験となりました。



「青少年赤十字創設100周年スタディー・ツアー」に参加しました

令和4年11月19日・26日の2日間、「青少年赤十字創設100周年スタディー・ツアー」に桑名市立在良小学校6年生の子供たちが参加しました。

奥殿陣屋・博物館明治村の日本赤十字社中央病院棟では、赤十字の創設者であるアンリ・デュナンや日本赤十字社の創設者の一人である大給恒が、「敵味方区別なく苦しんでいる人を救った」という赤十字の原点を学ぶことができました。日本赤十字社愛知県支部、愛知県赤十字血液センター、日赤愛知災害管理センター1棟では、「災害時に苦しんでいる人を救えるように」と備えられている赤十字の災害救護の仕組みなど、赤十字の今を知ることができました。

参加した子供たちは、「自分も困っている人を助けた」「スタディー・ツアーで学んだことを学校生活に生かしていきたい」など、学んだことや感想を壁新聞にまとめました。壁新聞は、県内のJRC加盟校へ配付していますので、ぜひご覧ください。

編集後記

本年度は青少年赤十字創設100周年の佳節にあたり、三重県では多くの方に青少年赤十字の活動を知っていただくようさまざまな取り組みを検討してきました。令和3年度「青少年赤十字創設100周年記念青少年赤十字ポスターコンクール」、令和4年度ポスターコンクール受賞作品の地域巡回展示、そして、100周年の総仕上げの取り組みとして「三重県青少年赤十字まつり」を計画しました。まつり当日は4,000名を超える多くの方に来場いただき、一日楽しく過ごしていただくことがとてもうれしかったです。

100周年の取り組みの柱となってきたのが国際人道法です。第2次世界大戦時に青少年赤十字は特定し、創設100周年の年にはロシアによるウクライナ侵攻がはじまりました。青少年赤十字の存在の意義を深く心に刻み、フロンティア支援環境の話や、パンフレティ・避難民人道支援に携わった方々の話を聞いたりする研修を重ね、JRCメンバーの自分たちができることは何かを真剣に考え、実行することができました。このこと自体が、100周年の大きな意義であったように思います。

令和6年度の三重県支部社屋移転(津市中勢北部サイエンスシティに移転予定)に向けて、より一層青少年赤十字活動を展開していきたいと思っています。一年間、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



記念講演
「国際赤十字活動と人道支援」
～バングラデシュ避難民キャンプでの活動を通して～



伊勢赤十字病院・看護師長安藤恵理さんに、2017年に日本赤十字社の医療チームの一員としてバングラデシュの避難民キャンプに派遣されて医療支援の活動を行った際の経験を話していただきました。真剣な面持ちで安藤さんのお話に聞き入る生徒たち。安藤さんは未来を拓く高校生たちに、「自分のできること、したいことを目指して将来に向けて知識を備えることや、いろんな経験をするのが必ず自分の成長につながる」と力強いメッセージを送ってくれました。

赤十字奉仕団



高校生の活躍の場を盛り上げるために、赤十字奉仕団の皆さんにも青少年赤十字まつりに参加していただきました。無線体験や点図作成、赤十字バッジ作りやAED体験、ハートラちゃんのプラン作りやお面づくりなど、活発にブースを展開。多くの子どもたちに、楽しみながら赤十字の活動への興味を広げる機会を提供してくれました。

ステージ・協賛団体企画



特設ステージではダンスグループや話題の親子大道芸人「吉田さんちの大道芸」のステージが披露され、最後にはお菓子まきを実施。集まった人たちは大いに盛り上がりました。参加したダンスチームには、青少年赤十字創設100周年事業「つながるダンスプロジェクト」にも参加してもらいました。野外会場では、血液センターブースの献血車乗車体験をはじめ、キッチンカーやクレーン車を使ったゲーム、庭師体験などのお楽しみも。会場は終始賑わいを見せていました。



令和4年10月23日(日)

青少年赤十字創設100周年記念事業

三重県青少年赤十字まつり

高校生たちが中心となって企画・運営にあたった「三重県青少年赤十字まつり」。約4,000名を超える皆さんにご来場いただき、盛大に開催されました。イベントの様子や高校生たちの声をご紹介します。

バルーンアート
館内ぐるぐるスタンプラリー
木本高校

会場内を歩き回って子どもたちにいっぱい声をかけてもらえたのが嬉しかったです

さまざまな形状のバルーンアートを作って、来場者の皆さんに楽しんでもらいました。

「接客」には少し不安がありましたが、勇気を出して頑張りました

子どもたちからの「ありがとう」が大きな励みになりました

ジャグリング
車いす体験
白子高校

車いす体験は新たな気づきを感じてもらえる時間に

屋外ステージでジャグリングを披露。その後、多くの子どもたちに楽しさを伝えました。

生徒の声

「子どもたちとのジャグリング体験では、人に何かを教えることの難しさを感じました。それでも、一緒に練習して上手にできるようになった子どもたちからは感謝の言葉をもらえて嬉しかったです」
「ジャグリング体験によって、初めて会った相手ともコミュニケーションを深めることができるんだと学ぶことができました」

上達するにつれて笑顔を見せてくれる子どもたちの姿がとても印象に残りました

生徒の声

「来場してくれた人たちを迎えて自ら話しかけるのは少し勇気が要ることでしたが、会場内で多くのお客さまに話しかけることができ、成長を感じることができました」
「これからこのようなイベントを開催する機会があると思うので、自分たちもリーダーシップを発揮できるよう、この経験を生かしていこうと思いました」

小さな子どもたちにバルーンアートを選んでもらうときには、しゃがんで一緒に選んだり、全色のバルーンを見せてどの色がいいか指をさしてもらったりする姿も。色々々と接する中で、一人ひとりに楽しく過ごしてもらったための工夫を学ぶ機会にもなりました。



参加したスタッフは総勢169名。三重大学教育学部1年生の学生ボランティアも応援に来てくれました。

長期間にわたる準備を重ねて迎えた「青少年赤十字まつり」当日。天候にも恵まれ多くの方に楽しんでもらえる、充実した1日となりました

SDGsクロスワード
クイズでおかしGET!

高田高校

クロスワードクイズを通じて、子どもたちにSDGsの取り組みの大切さを伝えました。

思っていたよりも多くの小さい子どもたちが来てくれて、楽しんでもらえました

生徒の声

「子どもたちに問題の意味やヒントをわかりやすく伝えるのが難しかったけれど、子どもたちとふれ合えてとてもいい経験になりました」
「今後の取り組みでは、SDGsの一つ「海の豊かさを守ろう」の実現に繋がってほしい。いつかは海の底が見えるくらい綺麗な海にしていきたいです」



大人や小さな子どもといった普段の学校生活では交流のない年齢層の人たちに対して、もっと普段から積極的に関わり、いざとなったときに助けられる人になりたいと思ったという感想を述べる生徒もいました。

ウクライナ人道危機
救援金募金

飯野高校

会場入り口で募金活動を実施。多くの人たちが足を止めて、注目してくれました。

募金を呼びかけることの難しさも知りました。今後の活動に役立てていきます

生徒たちからは、「前を通る人の意識や視線を集中させることが重要」。「募金活動では、ブースのデザインや雰囲気がいり重要になってくることを学ぶことができた」という声も聞かれました。

生徒の声

「予想していたよりも多くの人が募金してくださり、想像以上の募金額が集まったので嬉しかったです。募金してくれた人の割合は子どもが多くて、自分の中で意外でした。少しずつではあるけど、社会の状況と共に子どもたちの世界に対する興味や意識が変化しているのかなと感じました」



ハンドベル演奏体験
手作りクリスマス飾り販売

久居農林高校

皆で息を合わせて特設ステージで演奏。緊張しながらも充実感の感じられる体験に。

演奏を聞いてくれたお客さんの拍手がとても嬉しかったです

生徒の声

「募金活動でクリスマス・正月飾りを販売して支援活動を知ってもらえたり、自分も活動に協力できてよかったです」
「多くの方に青少年赤十字の活動を知ってもらえる活動が続いていくことが大切」
「他校の取り組みを見ていると大人から子どもまで興味を持ってそう楽しい企画がたくさんあって、自分たちの今後の活動の参考になりました」

特設ステージでハンドベル演奏を披露した後は、会場内のブースで子どもたちにハンドベル体験を楽しんでもらいました。ブースではクリスマスや正月飾りを販売しながら募金活動も実施。ステージの緊張と子どもたちとふれあう楽しさを味わい、生徒たちは実り多い1日を過ごすことができました。

ポッチャ・射的
紀南高校・東紀州くろしお学園

会場の一角ではポッチャや射的に興じる子どもたちの楽しげな声が響いていました。

生徒の声

「子どもたちがたくさん来てくれて嬉しかったです。ポッチャがたくさんの人に知ってもらえるといいなと思いました」
「予想以上の人出で、割り箸鉄砲の射的の景品がお昼前にはすべてなくなってしまうほどでした」
「小さな子どもたちの来場が多かったので、飾り付けはいつもより可愛らしくしておいてもよかった」



「投ごとに熱い視線が。誰も一緒に楽しめる「ポッチャ」の魅力を味わってもらいました



これだけの大きなイベントの企画・運営に携わるのは生徒たちにとって初めてのことで、達成感と反省が入り混じった経験は今後の成長の糧になります。

国内災害義援金募金
四日市四郷高校

会場入り口にブースを設けて、国内の災害を支援するための募金を呼びかけました。

人々が善意のバトンを繋げていく大切さを知ることができました

生徒の声

「募金活動を行う中で、多くのバトンが合わさって人々とは繋がっていることを実感しました」
「今、普通の生活を送っていることへの感謝とともに、苦しい状況が一秒でも早く改善されてほしいと思いました」
「自分ひとりでは難しいと思えるようなことでも、周りと協力して素晴らしいものにすることができました」



青少年赤十字ポスターコンクール受賞作品も展示されました。



三重テレビやFM三重に出演して、「三重県青少年赤十字まつり」のPRをしました。